

# 環境・ECO通信 Vol.23

## ペットボトルキャップ回収 始めました

チャレンジ 25  
 全国が変わる、日本が変わる。

町ではペットボトル本体は資源物としてリサイクルしていますが、キャップは燃えるごみとして処分しており、二酸化炭素の排出につながっていました。

そこで、ごみの減量化と二酸化炭素排出削減、さらには、キャップの売却益がポリオワクチン購入費用の一部として発展途上国の子どもの命を守る活動に活用されることから、ペットボトルキャップを回収することにしました。

回収方法としては、役場や勤労青少年ホーム、老人センターなどの公共施設と各行政区集会所(13施設)の20施設に回収ボックスを設置いたしました。

小さな小さなペットボトルキャップですが数がまとまれば貴重な資源です。回収・リサイクルにご協力をお願いします。

※参考  
 ○キャップ400個を焼却すると、3.150gのCO2を排出します。  
 ○ペットボトルキャップ400個で10円の売却益。発展途上国でのポリオワクチン代は一人当たり20円です。



鏡石町の ごみ収集実績	4~6月までの収集量(t)		
	22年度	21年度	前年対比
燃えるごみ	862.6	887.6	97.2%
燃えないごみ	34.6	41.1	84.2%
合計	897.2	928.7	96.6%
資源物	65.7	71.2	92.3%

前年同期より燃えるごみが約25t減っています。今後も、「生ごみ減量」などご協力をお願いいたします。

お問い合わせ先 健康福祉課 ☎62-2115

## ふるさと 故郷だより ~私の育ったまち~



梅原 郁恵 さん(本町)

岩手県  
旧胆沢町  
出身

今月は、岩手県旧胆沢町出身の梅原郁恵さんにお話をうかがいました。

梅原さんの故郷は、現在は市町村合併により奥州市となっており、一関や平泉の北側に位置しています。「鏡石で暮らし始めて3年になりますが、故郷と比べて雪があまり降らないので、少し物足りない感じがします。」と笑いながら話しておられました。実家から近くのスキー場へは車で30分ほどだったので、仕事を始めてからも、有休を使って趣味のスノーボードをしにいったそうです。

鏡石町の印象を尋ねると、「ごみごみしてなくて緑が多いし、交通の便もいいので、とても気に入っています。」とおっしゃっていました。また、鏡石に来てから初めて食べた「いかにんじん」は、おいしかったそうですが、なぜお正月にしか出てこないのか今でも疑問に思っているそうです。

梅原さんは現在2歳の大武(ひろむ)君の子育て真っ最中で、毎日元気な大武君と一緒に奮闘しているそうです。「もう少し大武が大きくなったら、主人が大学までやっていた水泳を大武にも教えたいと言っているのですが、自分もダイエットをかねて家族みんなで「すいすい」へ行きたいです。」と話されていました。

このコーナーにご協力いただける方を募集します。故郷の思い出を語ってみませんか。お問い合わせは、町総務課(☎62-2111)までお電話ください。

## 個人事業税の納期のお知らせ

個人事業税とは、個人で事業を行っている方に課税される県の税金です。今年度の第一期の納期は下記のとおりとなっています。送付された納税通知書より、最寄りの金融機関で納期限内に納めましょう。

- 納 期 8月31日(火)
- 問合せ先 福島県中地方振興局県税部 ☎024-935-1251

つらい つらい 誰にも話せない 借金の悩み...  
 ご相談ください 秘密は厳守いたします  
**司法書士法人 あおば事務所**  
 須賀川事務所: TEL0248-72-7057 須賀川市岡東町177  
 福島事務所: TEL024-533-0243 福島市南中央3丁目7-2

## 須賀川警察署管内における 死亡事故ケースファイル

- ケース1**  
5/10 犠牲者 77歳  
運転走行中に道路わきの欄干へ衝突。
- ケース2**  
5/27 犠牲者 81歳  
運転走行中、早朝の点滅信号交差点で、優先信号無視の車と衝突。
- ケース3**  
6/3 犠牲者 71歳  
トラクターを運転中、のり面に乗り上げて転倒。
- ケース4**  
7/14 犠牲者 73歳  
歩行中、70歳が運転する車が右折した際にはねられる。

須賀川警察署管内で、5月から7月にかけて4件の死亡事故が発生しており、いずれの高齢者となっています。この状況を重くみた、町の交通安全協会でも、町内の多くの高齢者の方に交通安全に関心を持ってもらい、事故にあわないよう次の通り交通安全教室を実施しています。

【高齢者交通安全教室】  
町交通安全協会では、各行政区の老人クラブや老人センターでの集まりの際に交通安全教室を実施しています。事前に事務局や各行政



▲町老人センターで行われた交通安全教室

政区の交通安全協会理事に申し込みして、いただければ、安全協会理事や警察官が講師となり集会所などで教室を実施します。費用は無料ですので、積極的に申し込みください。

お問い合わせ先  
 鏡石町交通安全協会事務局  
 ☎62-2111

## 国勢調査が始まります(第一回)

今年の10月1日現在で全国一斉に国勢調査が行われます。今月号から3号連続にわたって、町民の皆さん全員に協力していただく国勢調査についてお知らせしていきたいと思っております。

国勢調査とは、我が国に住んでいる全ての人、世帯を対象とする国の最も基本的な統計調査で、国内の人口や世帯の実態を明らかにし、各種政策の基礎資料を得ることを目的として実施されます。

つまり、日本の中に住んでいる人全員の出席確認と考えていただけるとわかりやすいかもしれません。

皆さんのお仕事でもまずお客様の情報を確認してから企画を考えたり、物を作る数を計算したりするように、国の政策の基礎となるのが今回の国勢調査となります。

確かに、日本国民は自分が住んでいる住所に住民登録しなければならぬという定められています。

しかし実際は、学生で遠くの大学へ通うのに住民登録した住所へ住んでいなかったり、転勤が多くて異動の手続きが追いつかなかったり、また、外国の方はそもそも住民登録の対象となっていないかもしれません。このように、住民基本台帳と実態では若干の誤差が生じてしまいます。それら全ての実態を把握するためにとても大事な調査なのです。

大事な調査なのはおわかったけど、去年はやらなかったよね?

国勢調査は全ての住民を対象に行う調査なので、かなり大規模な調査です。そのため、住民の皆さんの負担を減らすために、5年に一度の調査となつていきます。

第1回は、大正9年で、以来5年に一度ずつ調査が行われており、今回の調査が19回目になります。

仕事忙しいし、日中は家にいないし、私一人くらい協力しなくても大丈夫でしょうか?

調査にあたっては、皆さんに協力してもらえよう、十分配慮いたします。(詳細は次号でお知らせします。)

そして、自分ひとりなら大丈夫だろうと考える人が、全国の市町村1,700で10人ずついたとすると、全国で一万七千人が日本の人口からいなくなってしまうのです。

みなさん一人一人の協力により正確な調査結果と、これからの日本や鏡石町の政策が決まります。

来月号では、実際にどんな調査が行われるのかなどをお知らせしたいと思います。